

低炭素社会づくりを目指した 若者達による参加・熟議の推進

—低炭素社会構築に関わる参加・熟議プラットフォームの創設に向けて—

つづける助成

2年目

知識の提供・普及啓発

大学・高専での
プログラム参加者 **161人**

地域での
プログラム参加者 **31人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**



「埼玉脱炭素社会への変革」討議の発表

課題

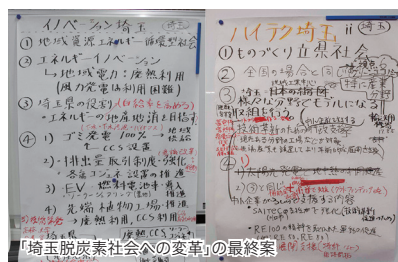
低炭素社会構築への議論が市民レベルでなされていない。若者に焦点を当てたエネルギー問題・低炭素社会人材育成プログラムを地域社会・大学等で充実させていく必要がある。

目標

低炭素社会づくりについて若者が自分で考え、行動に結びつけていこうとする能力を身につけ、動機付けを与える。

活動内容と成果

気候変動、エネルギー、シミュレーション、対話の専門家との協働で、定量化シミュレーションを用いた参加・熟議型の教育プログラム「次世代エネルギーワークショップ」を開発した。6大学（延べ11大学）と4高専（延べ5高専）の講義に導入した。また、「低炭素都市づくりエネルギーワークショップ in 川崎」、「埼玉脱炭素社会づくりエネルギーワークショップ」を開催し、地域での人材育成プログラムを試みた。大学・高専、地域ワークショップへの参加者アンケート等を通じ、有用感の確認を行うと共にプログラム評価を実施した。



今後の展望

大学・高専への参加・熟議型エネルギー・脱炭素プログラムの普及発展に関しては、この2年間構築した教員等とのネットワークを大事に、大学・高専側の主導で進められるよう協力・支援を継続する。地域社会での本プログラムの普及・進展には、引き続き、実践的な開発を含め戦略的協働による取組みを強化する必要がある。今後、環境省、全国・地方の地球温暖化防止活動推進センター、専門家、NPO等とも協議を重ねていきたい。

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

川崎・埼玉ワークショップは若者対象であったが、参加者集めに苦労しシニア層との混合実施に。エネルギーの地域情報・データが乏しく、地域に立脚した深い議論に至らず。

■ 工夫した点

「参加・熟議型エネルギー・脱炭素教育プログラム」を、大学、高専の教育現場、地域社会の実情やニーズに応じて、原型を修正して適用し、何通りものプログラムが誕生した。



エネルギーシミュレーションを使った討議

全助成期間の活動を振り返って

大学の教育課程における参加・討議型プログラムの開発普及は成果を生み完了。2019年度以降の自立的実施・拡充の礎を築いた。高専に関しても教員自らプログラムのさらなる改善、全国普及に向け展開するきっかけを作ることができた。地域ワークショップでは、市民に地元地域を脱炭素に向け転換していく方策を考え議論する場を創出し、地域リーダーとなる人材育成に寄与でき、さらに各地域に展開していく上での貴重な経験知を得た。

活動地域 | 日本全国

〒160-0015 東京都新宿区大京町31-22-202

電話：03-6883-8865

E-mail: office@inst-dep.com

http://inst-dep.com

